

オーラル・コミュニケーションA 1年生

—— ディベート指導 ——

浅見道明

授業の概要

平成14年度入学生は完全週休2日実施とともに授業時間が削減され、その関係で、今まで2年生で実施されていたオーラル・コミュニケーションBが開講されなくなった。そこで、オーラル・コミュニケーションAでリスニング力をつける必要があったので、担当者と話し合い、ディベートを実施することにした。

入学してすぐにスピーチ、Yes-No Dialog、Chalk Debate、Formal Debateと段階的に指導した。公開教育研究会ではYes-No Dialog、Chalk Debate、Formal Debateを2時間かけて行った。

スピーチはEye ContactとPostureから指導し、1学期前半で全員にShow & Tell Speechを行わせた。話し手はALTが、Volume（声の大きさ）、Spontaneity（自然さ）、Comprehensibility（わかりやすさ）、Posture（姿勢やジェスチャー）、Contents（内容）という評価項目で評価した。聞き手はExcellent、Very good、Good、Poorの4段階でスピーチを評価させ、コメントもつけさせた。

Yes-No Dialogはペアワークであり、以下の手順で行い、ディベートのゲーム性を理解させた。①ペアを作らせて、じゃんけんをして先攻、後攻を決める。②その日のトピックである質問をさせる。③質問をされた生徒は、YesかNoか選択し、その理由を3つ以上あげる。④質問者を交替し、質問された生徒は相手と違う答えをする。そして、その理由を3つ以上あげる。⑤対話の記録を紙に書いて提出する。教師は理由が1つしか書けない場合はC、2つの場合はB、3つ以上かけた場合はAと評価して返却した。

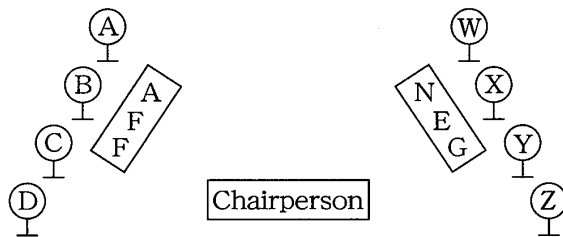
Chalk DebateはYes-No Dialogと同じ話題を使い、Yes-No Dialogで分けた肯定側と否定側にクラスを2つに分けて、生徒に席を移動させ、以下の手順で行う。①20名のチームのリーダーを決め、じゃんけんをさせる。勝った側が先攻か後攻か選ぶ。②先攻が5分間で意見を述べ、ALTが黒板に板書していく。③後攻が5分間で意見を述べ、ALTが黒板に書いていく。その際、Counter Opinionは矢印で示す。②と③を2度繰り返し、矢印で消されなかった意見が多い方のチームの勝ちとする。Chalk Debateの時間の終わりに4人のチームを作らせる。

Chalk Debateの翌週からFormal Debateを同じ話題で始めた。1時間で1回のFormal Debateを行い、同じ話題で5回のFormal Debateを行った。話題は以下の通りであった。

1. The Azamis should move to Tokyo.
2. Ochanomizu High School should return to a six day school week.
3. Tokyo should strictly prohibit the homeless from living on public land.

Formal Debateの手順は以下のように行った。

1. Affirmative 1st Constructive Speech (A) (2mins.)
2. Cross-Examination (X→A) (1min.)
3. Negative 1st Constructive Speech (W) (2mins.)
4. Cross-Examination (A→W) (1min.)
5. Intermission (2mins.)
6. Affirmative 2nd Constructive Speech (B) (2mins.)
7. Cross-Examination (W→B) (1min.)
8. Negative 2nd Constructive Speech (X) (2mins.)
9. Cross-Examination (B→X) (1min.)
10. Negative 1st Rebuttal (Y) (2mins.)
11. Affirmative 1st Rebuttal (C) (2mins.)
12. Intermission (2mins.)
13. Negative 1st Rebuttal (Z) (2mins.)
14. Affirmative 1st Rebuttal (D) (2mins.)



Formal Debateを行う者以外の生徒はジャッジとして1時間分の記録をとらせて提出させた。ALTはDebateを行った生徒をDelivery、Voice、Posture / energy、Argument、Responsesで、それぞれ3段階で評価した。JTEはジャッジの生徒の記録を読み、ほとんど聞き取れていればA、だいたい聞き取れていればB、半分程度しか聞き取れていなければCの3段階で評価して返却した。

公開教育研究会では1年菊組で授業を行い、話題はOchanomizu High School should return to a six day school week.であった。

研究協議

20名ほどの先生方が研究協議に参加して意見を交換した。その中で、40名でディベートを行うのは大変ではないかというクラスサイズに関する意見が出されたが、同じ話題のディベートを5回行うことで意見が深まり、聞く側も進歩したという感想に参加者は驚いているようであった。